

## 第3回 HPCI 検討総会議事概要

### 1. 日時

平成 23 年 7 月 5 日 (火) 13:00~14:55

### 2. 場所

国立情報学研究所 12 階 会議室

### 3. 出席者 (敬称略)

#### 【ユーザコミュニティ機関】

森下 (理化学研究所)、常行 (東大物性研)、加藤 (東大生産研)、善甫 (産応協)、福田 (FOCUS)、藤井 (JAXA)、中島 (原研)、渡邊 (核融合研)、荻野 (名大太陽研)

#### 【計算資源提供機関】

大宮 (北大センター)、小林 (東北大センター)、石川 (東大センター)、阿草 (名大センター)、中島 (京大センター: TV 会議)、竹村 (阪大センター)、青柳 (九大センター)、佐藤 (筑波大センター)、青木 (東工大センター)、水関 (東北大金属研)、冢 (東大物性研)、柴田 (京大基礎物理研)、保坂 (阪大核物理研センター)、橋本 (高エネ研センター)、富阪 (国立天文台)、水谷 (分子研センター)、中野 (統計数理研)、嶋 (JAXA センター)、渡邊 (JAMSTEC)、関口 (産総研)、谷 (原研センター)、鈴木 (理研センター)、平尾 (理研機構)、安達 (NII)、中村 (RIST)

#### 【メインオブザーバー】

米澤 (理研機構)、横川 (理研機構)、岩本 (文科省)、井上 (文科省)、鈴木 (文科省)

#### 【事務局】

安藤 (理研機構)、塩崎 (理研機構)、中井 (理研機構)、南 (理研機構)

### 4. 議題

- (1) 「京」の整備状況について
- (2) 「HPCI とその構築を主導するコンソーシアムの具体化に向けてー中間報告ー」について
- (3) 今後のスケジュール
- (4) その他

### 5. 議事概要

- (1) 「京」の整備状況について
  - 藤井代表より、「京」の TOP 500 ランキングでの首位獲得に対してコメント。
  - 資料 1 に基づき、理研横川次長より、「京」の TOP 500 ランキングでの首位獲得と、整備状況について説明。
- (2) 「HPCI とその構築を主導するコンソーシアムの具体化に向けてー中間報告ー」について
  - 資料 2-1 の第 1 章を中心に、HPCI 検討委員会米澤副委員長より、第 2 回 HPCI 検討総会で説明を行った中間報告案に対し、その後の議論を踏まえ修正を行った箇所について説明。また、第 1 章の修正に先立ち、計算資源に関する運用の考え方を整理した資料 2-2 について、米澤副委員長および藤井代表より説明。
  - 同様に、資料 2-1 の第 2 章について、システム整備検討WGの米澤代表より、修正箇所の説明。併せて、資料 2-3 に基づき、システム整備検討WGで検討を行っている HPCI 共用ストレージのあり方について説明。

- 資料2-1の第3章については、産業利用促進検討WGの善甫委員より、書き換えた報告書の内容について説明。
  - 〈産業利用における企業の国籍について〉
    - ◆ 産業利用促進検討WGでの検討では、暗に国内の企業を想定していた。
    - ◆ 各資源提供機関が海外企業の利用を認めるかどうかは、旧コムの規制に依存する。従って、海外企業の利用を認める場合は、経産省に個別に申請を行う必要があるが、現実的には海外企業は受け入れていない。
    - ◆ 「京」においても海外企業の利用に関して、議論を始めたところ。基本的には国内の利用者を想定しているが、海外と国内の共同研究での利用等が考えられる。
    - ◆ 「第1回HPCI検討に関する意見交換会」でも、アジアの育成に関する意見が出されており、海外の利用者の考え方については、議論すべき課題。
  - 〈コンソーシアム構成機関について〉
    - ◆ 構成機関の定義や、選定基準、選定主体等について、今後明確にしていく必要がある。
  - 〈各機関が保有するストレージを共用ストレージとする場合の運用について〉
    - ◆ 計算機と同様、シングルサインオンで利用するが、一括した課題選定は行わないという運用もあり得る。
    - ◆ 資源提供側に対しては、ある程度の技術力と運用体制が要求されると考えられ、詳細について検討中である。
  - 〈商用アプリのライセンスについて〉
    - ◆ 非常によく使われ、本当に「京」の威力を発揮できる商用アプリは、基本的には「京」にも移植したいと考えており、移植コスト、課金体系も含め検討中である。
    - ◆ 産業利用促進検討WGでは、ソフトウェアの計算機上の登録・搭載はセンター側が行い、ユーザは利用ライセンスをベンダーから購入することとしている。しかし、アカデミックライセンスと商用ライセンスでは料金の規模が全く異なるため、今後そのあたりの議論は必要。
  - 〈企業の利用支援について〉
    - ◆ 100並列程度までは支援というよりも教育。1万並列以上の支援は登録機関が行うが、数千から1万並列までの支援について実際手を動かすのは企業だとしても、国費でどこまで支援を行うのか、考える必要がある。
  - 〈産業利用におけるアプリのポータリングについて〉
    - ◆ トライアルユース後の実用段階で使えるアプリでないと、ポータリングする意味がない。そのあたりも踏まえ、ライセンスのあり方についても整理する必要がある。
    - ◆ 海外のアプリを「京」にポータリングするのは難しい。このような点も今後検討する必要がある。
  - 今後、以上の点については引き続き検討を行っていくこととし、中間報告案について構成機関の了承が得られた。
  - 第5回HPCI計画推進委員会には、この中間報告に従い検討状況の報告を行う。
- (3) 今後のスケジュール
- 資料3に基づき、HPCIシステム運用開始に向けたスケジュールについて、事務局より説明。
- (4) その他
- 資料4に基づき、HPCI整備や、共用法に基づく「京」の共用に向けての準備の状況について、文部科学省より説明。
  - 「これからのスーパーコンピューティング技術の展開を考えるシンポジウム(6月27日、28日開催)」の概要について、文部科学省より報告。